

令和6年度 くさばな幼稚園 自己評価シート

記入者

園長 影山 幸江

1、園の教育・保育目標

教育・保育方針

♪一番だいじなことは人間観

本園は、人それぞれに仏性（ぶっしょう）があるとする仏教的人間観を基礎に置いています。

♪保育＝「教育」＋「養護」

ここが小学校以上の学校教育とは違うところです。幼児には、就学前の教育と同時に、温かく包み込む養護が不可欠です。多様な世界の体験の機会を用意し、人とのつながりである社会性と世界への興味と関心を養いつつ、その成長のお手伝いをすることを使命と考えています。

♪あるがままのこどもの姿をだいじにすること

子どもの世界に入ってみると、生れてわずか3～4年しかたっていないのにどうしてこう違うのだろう、と不思議に思われるほど、ひとりひとり個性があり、輝いています。そうした個性を丸ごと受け入れるところから保育は始まると考えています。

♪子どもと保育者との関係が暖かであること

子どもにとって保育者（教諭＝先生＝担任）は、最高のお手本であり、育つ環境を一身に体現している存在です。保育者との家族的で暖かな交流を通じて、子どもが快適で安心できる人間関係のなかで育まれるということが、子どもの成長にとって最も大切なことであり、これが保育の基本であると考えています。

♪子どもが生活しやすい場所であること

幼稚園は子どもが生活しつつ学ぶところです。子どもが家庭と同じ気持ちで生活するためには、なにが必要でなにが必要でないか、すべての選択の基準をそこにおいて保育を組み立てて行くよう努めています。

2、具体的な目標や計画

この自己評価は、園長のリーダーシップの下で当該幼稚園の教員が参加し、設定した目標や具体的計画等に照らして、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価を行う。

評価基準

施設関係者評価実施を実施し、その評価をもとに園長を中心に職員間で、幼稚園としての自己評価を行った結果を各項目について、3段階（1～3）の基準で評価し平均値を表記する。

公開方法

評価を取りまとめ、ホームページに記載するなどの方法により評価結果報告書として公開する

改善

園は自己評価及び評価結果報告書を設置者(法人本部)に提出する。

設置者は施設評価結果の報告書に示された園の特色や課題に向けた取組状況等により、園の教育・保育活動その他の園運営の状況を把握し、その状況や必要性を踏まえて、園に対する支援や条件整備等の改善を適切に行う。

3、 評価項目の取組及び達成状況

項目	評価項目	結果 (※)	結果の理由
運営	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を理解できている。	3	毎年年度の初めに全体職員会議を行い、理事長から理念やビジョンについての話があるため、職員全体で共通認識ができていると考える。
	事業所は、課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している	2	学期ごとに全体職員会議を行い、一人ひとりの反省やまとめを全体に向けて伝え、翌学期の保育に課題を持って取り組めるようにしている。しかし、保育に直接携わらないセクションの職員までそうした課題や取り組みに関して浸透しきれていないことがあると考える。できるだけそうした職員にも考えてもらえるようにしていきたい。
	教育方針を園児・保護者等に説明したり、広報したりすることに努めている。	3	基本的な考え方(理念・方針)についての説明は入園児の重要事項説明やパンフレット、在園中は『くさばな新聞』や『クラスだより』で伝えられている。幼稚園のコンセプトとして「遊びこそが学び」という方針を、近年では保護者から「あれを教えてください」、「勉強は?」という声がある中、「遊びこそが学び」これを自身をもって言えるようにしていきたい。
	目標達成の度合いを年度途中で評価・確認する機会を設け、その後の教育活動に生かすことができている。	2.5	毎年、園内保育や公開保育を実施し、終了後に反省や課題を話し合うことで自園の保育を見直す機会を作っている。 職員一人ひとりが研修を先延ばしせず実施できる意識づくりを定着していきたい。
教育	年間指導計画を立て、計画に基づいた指導を行う	2.3	年間指導計画の作成に当たっては、保育に直接携わる担任が中心となっているため、その他の職員も指導計画内容を浸透させ、保育を行えるようにしていきたい。
	園児の実態に応じて、教材を精選したり、教育機器等を用いたりして、指導を工夫する	2.7	クリスマスの製作、ありがとうの木、給食の食育ボードなど、目で見て子ども達が分かりやすい環境設定ができている。 その制作中にも友達に教えてもらったり、自分で教えたりし、使っている姿を見て、考える力を育む大切さに気が付いた。などの意見がでたが、今後は、踏襲型ではなく職員が自発的な新しい工夫も期待したい。
	園児の多面的な能力を知識・理解のみならず、活動に取り組む意欲的な姿勢ができている。	2.8	全体的にゆったりと子どもに関わっている穏やかな雰囲気を感じた。巧技台の説明が丁寧だった。難しいと感じている子には、「○○のやり方をしても良い」などと、いくつかの提案があったのが良かった。などの意見もあり、自園が大切にしていることが伝わったと思う。
	園児の実態に即した見直しを行い、内容を工夫することにより、効果的な行事を行う	3	何よりもまず、子ども自身が楽しみながらのものでなくてはならないと考えており、成長に合わせた、無理のない内容であるかどうか、一日のなかでの時間帯はどうか、こどもの立場に立ったものを心掛け、「見せる」ためだけのものにならないよう（保護者のためのものではなく、こどものため）、じゅうぶん練った内容となるよう努めている。 今後は、この方針を保護者へ理解してもらえるような日々の保育や情報提供を確立していきたい。
	あいさつ・マナー・礼儀の徹底、皆勤をめざす指導などきめ細やかな生徒指導を行い、基本的な生活習慣の確立に努める	2.8	子ども達が人懐こく挨拶してくれたり、遊んでいる時でも先生が話し出すと、先生に顔を向け、話を聞いたりする姿に、日頃の指導の姿が見えた。という意見が出た通りに子どもたちが自発的にできる環境とするために入園当初から大切にしているが、教諭はなんとなく行っている挨拶やマナーの意味まで理解できているか疑問で、職員一人ひとりの学びをより一層強化していきたい。
配 援 慮 助	発達の段階で支援を必要とする障害への理解と配慮を行う。	3	小規模な幼稚園の環境を活かして、支援が必要な子どもも関わっている。 幼稚園は児童発達支援施設でどのようなことが行われているのか、施設ごとの特徴を見学しにいき、理解したうえで、幼稚園保育に役立つ見識が必要だと考える。
	特別に支援の必要な幼児も普通に生活している中で全教師が連携を取り合い、視野を広げ、日々報告、反省評価し、一人一人の子どもの育ちや課題を確かめている。	2.8	加配職員と担任が日常的に当該児についての支援方法や関わりについて話し合っている。また、巡回相談や研修会に参加し、配慮が必要な子どもへの関わり方を学び実践している。また、学期ごとに子どもの成長や変化、今後の課題等を加配職員と担任から職員全体へ伝えることで、全職員が共通認識を持って支援児への保育を行えるようにしている。
	保育教員、職員が連携を取り合い、その子に合った援助を必要な時にしていくようにしている。	2.5	職員会議内で、配慮が必要な子どもの様子やクラスでの取り組みについての報告を行い、共有することで、園全体で必要な取り組みが行われている。

地域連携 子育て支援	就園前保育、教育相談、園庭開放等地域の子育て支援活動を行っている。	3	保護者が、笑顔の先生たちや、参加している保護者と、良い雰囲気でお話することができていて、公園のような誰でも入りやすい雰囲気を目指している。参加が低年齢化しているため今後の企画を考え直す必要があると考えている。
	地域や近隣の学校・関係諸機関との連携を密にし、園児が安全な学校生活を送れるよう努める	3	幼稚園としては最大限の連携を行っているが、小学校からくる職員の個人情報への意識の低さやその業務の無知さに右往左往させられることが毎年ある。教育委員会へ問題点を伝え、改善を要望しているが、今後はより一層の改善要求を行っていきたい。
	ホームページなどで、学校情報の積極的な発信を行う	2.8	ブログやInstagramで常に発信している。現在は事務が作業をしているが、今後は、保育担当者によるブログ更新を行っていき、内容も導入・ねらい・保育・反省を含んだ記事を書き、園の保育が第三者へ伝わる努力をし、少子化の中でも草花幼稚園に入園したいと思っていただけるような工夫をしていく。
保護者	保護者に園の情報を提供する	3	必要な情報は『くさばな新聞』や『クラスだより』およびホームページにて発信できている。保護者自身が読む読まないは別として、今後も継続していきたい。
	保護者との信頼関係の構築のため連携をはかる	3	先生たちが、とても穏やかで、必要なところに必要な言葉かけをしているのが印象的。という意見があった。たしかに信頼関係の構築にさまざまな努力を行っているが、伝達時に他の業務との兼ね合いで言葉足らずになって誤解を生む原因を作ってしまったこともあるので注意して保護者対応を行っていきたい。
	幼稚園としての相談機能を充分果たすことができるか	2.6	未就園児の園庭開放を行い、子育てに不安のある保護者の相談にのったり、アドバイスをを行っている。また、園児の保護者に対しても子どものことで相談があれば随時話を聞き、必要なアドバイスを行っている。保護者によっては、相談しにくさを感じている方もいるようなので、こちらからの声掛けが必要な場合もあると考える。
職員項目	教職員全体が改善や新しい取組を行い、学校が進化するよう努める	2.4	担任が中心となって保育に関する取り組みや新しいことを取り入れようとする一方で、担任以外の職員は、他の業務によりそうした話し合いの場に参加できないことが多く、全体での取り組みに難しさを感じている。参加ができなくても職員全体が共通認識を持ち、子どものために様々な取り組みにチャレンジしていけるように考えていきたい。
	全教職員で積極的に清掃活動に取り組み、施設設備を大切にすることを育成する	2.2	公開保育にて築37年の園舎とは思えないほど、きれいに使っている。園児の減少により、クラスの使い方が変わってきたりしながらも、園舎をきれいに存続させようという姿が見られる。という意見があった一方、整理する必要があるクラスがある。子どもにとって環境整備は大切。自覚をもって取り組むべきである。という意見もあった。1人担任で、時間がなく、苦手でできないのであれば、協力してもらって環境を園全体で工夫していきたい。
	全教職員が積極的に園内研修に参加し、自己の成長を促す。	2.2	園内研修に関しては、自身の保育を見られることに抵抗感があったり、日々の業務に追われて準備ができないこともあり、積極的に参加できない様子がある。園内研修の方法を見直し、積極的に参加できるように今後は取り組んでいきたい。
	園内研修、公開保育、園外一般研修、反省会などで問題点を見つめ直すことができた。	2.5	研修や行事の実施後に反省会を行い、良かったところ、反省、効果、今後の課題等を話し合い、次の取り組みに活かせるようにしている。

○ 結果(※)について

3	十分	左記の平均を表記
2	普通	
1	不十分	

5、 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
環境整備、安全対策	<p>公開保育で指摘があった保育室の整理整頓については、一人ひとりの感覚の違いがあるため、最低限必要な事柄を園長、教頭が具体的に指導し、意識づけることで改善傾向にある。環境整備についても日常的に意識が持てるよう教頭が中心となって他の職員に必要な声掛けを行っている。安全対策については、日常的に園内外を見て回り、必要に応じて行ってきているが、近年は、対策のしようのない事故も多くある（何もないところでの転倒など）。原因の1つとして、子どもの歩行力や運動能力の低下が考えられる。そのため、日常の保育の中で歩行力を高めたり、運動能力の向上を図るよう外遊びの充実や活動内で運動遊びを取り入れること、園外保育（散歩）などを行い、子ども達自ら事故予防に務められるように取り組んでいきたいと考える。</p>
職務分掌	<p>育休、産休職員の復帰、職員の増員により、自身の職務が遂行できなかつたり、他職員の職務を理解できないことが考えられる。また、新事業の展開により新たな職務も増えることから、職員一人ひとりの職務を明確にし、責任をもって遂行できるよう取り組んでいく必要がある。そのためにも、職員全体で職務分掌規程を見直し自身の職務内容を再確認するとともに、責任と自覚をもって取り組めるよう理事長、園長が指導をしていく。</p>
保育力の維持	<p>保育については毎日日誌を記入し、その日の反省を翌日の保育に活かせるようにしているが、パソコンの導入により、徐々に記載内容が簡素化しつつある。仕事の効率化も必要だが、重要な内容はしっかり記載し、自身の保育を振り返るような内容の記載をするよう改めて園長、教頭が指導していく。また、新卒が入ることで、新人の指導も必要になってくるため、本園の保育の在り方、方針を踏まえた指導ができるよう現職員も再度本園の保育について再確認する必要がある。そして、新人が自身の力を発揮できるようにするためにも新人の意見や想いも積極的に受け入れ、新しい風を入れながら職員全体で保育力の向上を図りたいと考えている。</p>

6、 園長総評

今回の学校評価を通じて、園の運営や保護者、子育て支援については概ね良い評価を頂いているが、職員自身のことや、自身に関わる教育の分野における評価が低い傾向にありました。それは、一人ひとりが直接関わる内容で、自己評価がそのまま反映されたのではないかと考えます。実際には、十分達成できているのではないと思われる項目もありました。まずは一人ひとりが自信をもって保育にあたるようにする必要があります。それと同時に、評価が低いものに対しては、職員同士で見直し、反省すべきところは反省し、次に活かせるようにしていきたいです。

また、今後の課題として3つの項目をあげました。これらの3つについては、令和6年度を迎えるにあたり、早急に取り組むべき課題だと考えています。職員が増え、職務自体はこれまでより多少は緩和されるのではないかと考えられますが、課題と向き合いながら自身の保育を高め、子ども達に還元していけるようにしたいと考えます。

いずれにしても、全職員が『草花幼稚園を良くしていきたい』という気持ちを持ってそれぞれの職務に取り組むことが今後の園の存続に繋がっていくため、一人ひとりが意識を持つことが必要です。